

# 紀伊水道におけるクルマエビの移動と成長

水産試験場

## 研究のねらい

平成 13 年度から資源量増大を目的とした種苗放流事業が始まり、その効果を実感できる手法として今までにない規模での標識放流を実施しました（表 1）。再捕されたクルマエビからその移動、成長の追跡、を行い効果的な放流手法（放流適地等）を検討します。

## 研究の成果

- ①標識クルマエビは、放流から約 2 ヶ月経過した 8 月末から放流場所の和歌浦湾浅海域から湾外にかけて広く再捕され、12 月末時点での再捕総数は 94 尾で、この内 8 尾が湾外で捕られました。湾外での再捕結果から、放流点から真西、南下そして北上する 3 群が認められました。
- ②再捕された標識クルマエビの成長は早く、7 月放流分では約 3 カ月後の年内には商品サイズの体長 10cm 以上になります（図 1）。これは、これまで知られていなかったことで、当初予想されていたよりも早く大きくなることがわかり、資源保護のために放流を行っている漁業者の方々の努力が報われる力強いデータを得ることができました。

## 研究成果の活用面・留意点

今後は周年におよぶ再捕資料を収集、検討して、その季節的な分布・移動、成長などを明らかにし、より効果的な放流方法を確立します。

表 1 標識放流の概要

No.	放流年月日	放流場所	放流エビの体長(mm) (平均値±標準偏差)	放流尾数 (尾)	標		識
					色・種類	大きさ(mm)	印字・識別等
1	2002年7月 4日	和歌山市毛見地先	72.5±5.0	5,320	赤色リボン	70×5	W02
2	2002年7月29日	和歌山市毛見地先	74.6±5.8	4,705	赤色リボン	70×5	W02、リボンの片端を斜めにカット
3	2002年9月24日	有田郡広川町唐尾地先	75.7±5.9	2,591	赤色リボン	70×5	2W0
4	2002年9月24日	有田郡広川町唐尾地先	73.2±5.9	2,392	赤色リボン	70×5	2W0、リボンの片端を斜めにカット

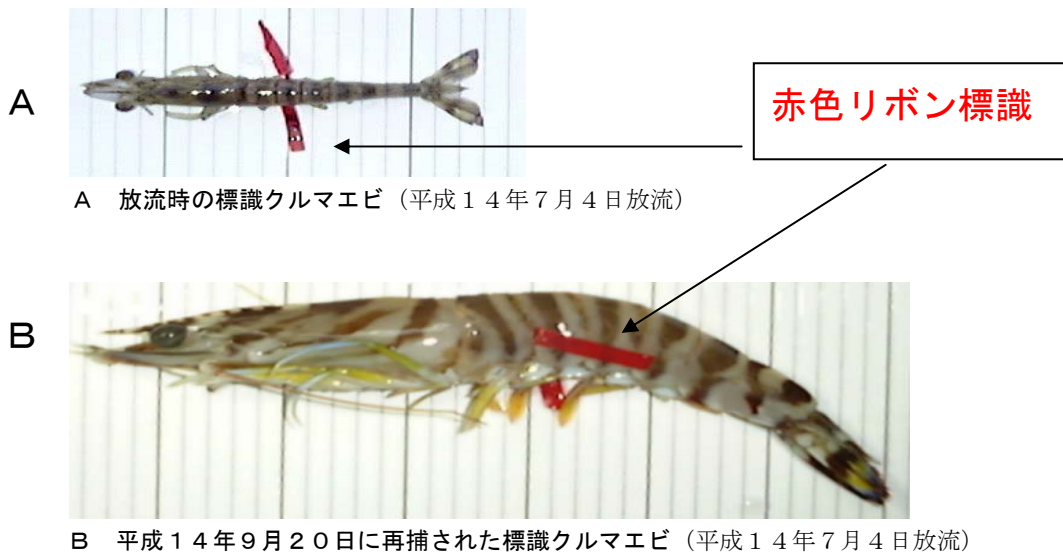


図 1 標識クルマエビ（図中の縦線は 5 mm 間隔）

（問い合わせ先：0735 -62-0940）